

## 修復的対話を用いたチーム連携、心理的に安全な職員環境の形成 ～地図ではなく、羅針盤を～



氏名 梅崎 薫 教授  
 所属 社会福祉子ども学科  
 URL <https://www.spu.ac.jp/academics/db/tabid334.html?pdid=194ume>  
 研究分野 修復的対話 葛藤変容 孤立予防 虐待予防 エンパワメント  
 チーム連携 心理的に安全なコミュニティ形成  
 キワード 修復的対話 葛藤変容 トーキングサークル 相互理解

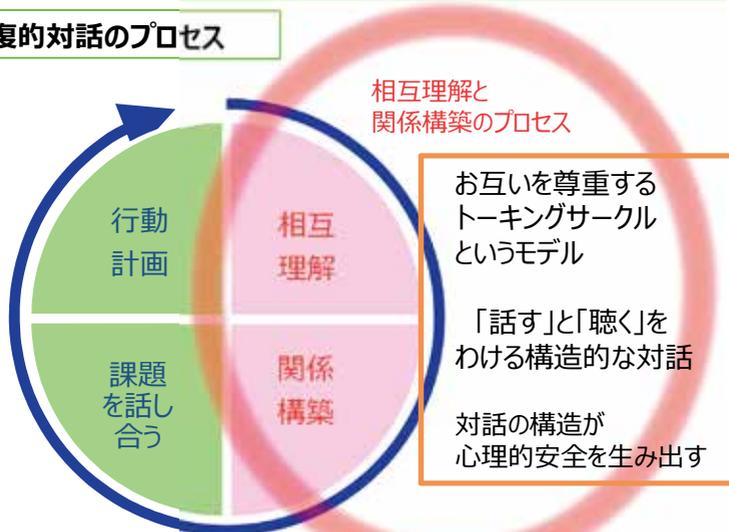
### 研究シーズの概要

- ・認知機能の低下・機能低下しつつある高齢者が、対人交流の場に参加して安心感を醸成する研究。
- ・修復的対話を活用して、職場や学校など、組織を安心できる環境・コミュニティに変容させる研究。
- ・支援者と被支援者がともに修復的対話に参加することで、お互いを理解し、新たな関係性を構築する研究。

### これまでの研究成果から

- ◆レクリエーションのような対話プログラム、たった1回、50分の参加で、学生の不安感が低下していました。
- ◆隔週50分、3回参加することで、学生の対人交流に対する認識が、否定的なものから肯定的に変化しました。
- ◆異なる人たちが参加する多様性のある対話が、豊かな対話となり、いつの間にか未来ビジョンを共有させます。

### 修復的対話のプロセス



### 葛藤変容のプロセス

修復的対話サークルモデルには、上記4つのプロセスがあり、トーキングサークルは、右側のプロセスだけを繰り返します。構造的な対話なので、安定した心理的安全性を生み出します。